

## 第1回 大宮地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日 時 平成31年1月19日(土) 13時15分～15時30分

2 会 場 大宮台自治会館 1階小会議室

### 3 出席者

(1) 委 員 10人

(2) 事務局 5人 \*教育委員会 企画課 伊原課長、古屋課長補佐、望月主任管理主事  
岩脇管理主事、吉田主任主事

(3) 傍聴者 3人

### 4 報告・議題

- (1) 【議題1】会の設立の趣旨について
- (2) 【議題2】会の名称について
- (3) 【議題3】学校適正配置の必要性について
- (4) 【議題4】大宮地区学校適正配置(案)の基本方針について
- (5) 【議題5】大宮地区学校適正配置(案)について
- (6) 【議題6】今後の進め方について
  - ・ 次回の協議内容について
  - ・ 会議開催のスケジュールについて

### 5 会議資料

- (1) 資料1:「大宮地区学校適正配置地元代表協議会(仮称)」の設立について(案)」
- (2) 資料2:「(仮称)大宮地区学校適正配置地元代表協議会委員名簿」
- (3) 資料3:「学校適正配置の必要性について」
- (4) 資料4:「大宮地区学校適正配置(案)の基本方針」
- (5) 資料5:「小中一貫教育校化について」
- (6) 資料6:「大宮地区学校適正配置(案)について」

### 6 議事の概要

#### (1) 【議題1】会の設立の趣旨について

事務局が資料1を基に、地元代表協議会設立の趣旨について説明した。

#### (2) 【議題2】会の名称について

「大宮地区学校適正配置地元代表協議会」を正式名称とすることが確認された。

#### (3) 【議題3】学校適正配置の必要性について

地区において学校適正配置が必要であるという認識が確認された。

#### (4) 【議題4】大宮地区学校適正配置(案)の基本方針について

小学校の統合と併せて小中一貫教育校化を見据え、学校適正配置の基本方針としていくことが確認された。

#### (5) 【議題5】大宮地区学校適正配置(案)について

各委員ごとに所属団体での意見集約を行い、次回協議会で再度協議することとなった。

## **(6)【議題6】今後の進め方について**

次回の協議内容及び、協議会開催スケジュールについて確認された。

## **7 発言要旨**

### **(1) 教育委員会挨拶（伊原企画課長）**

本日はお忙しい中にもかかわらず、皆様にお集まりいただき、御礼申し上げます。本日、皆様のご支援により仮称「大宮地区学校適正配置地元代表協議会」が設立される運びとなった。本協議会の設立にお骨折りをいただいた、廣瀬様、石井様、前田様をはじめ、本協議会の委員となっていたいただいた方々に、あらためて感謝申し上げます。

学校適正配置の目的は、子どもたちの教育環境の改善、教育の質の充実、そして地域の活性化にある。その推進にあたっては、地域のご意見や、ご要望を十分に踏まえ、地元の合意形成を図ることが何よりも大切であると考えている。

大宮地区においては、来年度 2019 年度には大宮台小が複式学級になることが見込まれ、2025 年度以降は大宮中が全校 3 学級になる見通しであり、急速に児童生徒の数が減っている。大宮小については、2022 年度までは 120 人以上の規模を維持するところではあるが、地区全体の子どもたちのためにということで、小学校の早期の統合について検討いただくことに御礼申し上げます。

地元代表協議会の場においては、これからの統合校の設置位置を決めるため、教育委員会の 2 つの提案をお示しする。教育委員会としてはいずれの設置位置になる場合も、中学校についても考慮する必要があると考えている。どちらの案も小中一貫教育校化を目指す案としており、もし実現すれば市内で初の取組みとなる。どちらの案の場合も子どもたちが小中 9 年間を生き生きと楽しく過ごせる教育環境を作らなければならないと考えている。2020 年度からは小学校では新学習指導要領が実施されることになっており、英語教育、プログラミング教育、プレゼンテーションやディスカッションを行う授業など、新しい教育が始まる。活気ある学校、魅力ある学校をつくることによって、地域の発展にもつながると考えている。

本協議会においても、各委員の皆様それぞれの立場から、ご意見をいただき、合意形成に向けて十分議論を尽くしていただきたいと考えている。

本協議会が、大宮地区の子どもたちに、より良い教育環境をつくるための、実り多き会となることを願っている。

### **(2) 会長挨拶（廣瀬会長）**

この地区の未来を決めるくらいの意識で協議会に参加したいと考えている。地域の中で、学校が持つ役割・存在感は非常に大きいものがある。地域の活性化ももちろん大切なことであるが、それ以上に大切なのは、地区を巣立っていく子どもたちである。この大宮地区を巣立つ子どもたちがどのように成長していくかに焦点を当てることを、この会議の場での検討の視点とすべきであろう。通学等詳細な問題は多々あると思う。

地区の過去の歴史よりも、これからの子どもの未来を中心に据え、これから協力をお願いしたい。

### (3) 協 議

#### 議題① 会の設立の趣旨について

〈事務局〉 まず、【議題1】「会の設立の趣旨について」、事務局から説明をさせていただきます。

【 資料1に沿って説明 】

ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

〈委員一同〉 質問等なし。

〈事務局〉 会の設立の趣旨について、ご承認いただければ、拍手をお願いしたい。

〈委員一同〉 【 拍手 ⇒ 承認 】

#### 議題② 会の名称について

〈事務局〉 皆様のご承認がいただけたため、仮称「大宮地区学校適正配置地元代表協議会」を正式に設立・発足させていただきます。資料1の(案)をお消しいただきたい。なお、資料2の委員の方々の名簿については、教育委員会のホームページに掲載し、公表することとして、よろしいか。また、ホームページ掲載用の写真を会議中に撮らせていただいてよろしいか。

〈委員一同〉 【 異議なし 】

〈事務局〉 次にこの会の名称について、(仮称)「大宮地区学校適正配置地元代表協議会」としているが、このままがわかりやすいと思われるが、いかがか。もし、他に意見がなければ、このまま「大宮地区学校適正配置地元代表協議会」に正式決定したい。承認いただける場合は拍手をお願いしたい。

【 拍手 ⇒ 承認 】

#### 議題③ 学校適正配置の必要性について

〈事務局〉 今後の進行については、廣瀬会長をお願いしたい。

〈廣瀬会長〉 協議に移る前に議長を選びたい。議長は、前田副会長をお願いしたいと思うが、いかがか。

【 異議なしの声 】

〈廣瀬会長〉 前田副会長をお願いします。

〈前田副会長〉 ただ今ご承認いただいたため、皆様のご協力により、会を円滑に進行していきたい。よろしくをお願いします。委員の皆様をお願いしたいのは、委員の名簿にあるとおり、それぞれの所属団体の代表として発言されることをお願いしたい。では、次第に沿って協議を進める。まず、【議題3】「学校適正配置の必要性」について、昨年8月から小学校の保護者に向けて説明会が展開されてきた。11月に地元説明会に約70名が参加され、説明した。その中で、早急に統合を進める必要は無いという意見も出ていたように思う。まずは、学校適正配置に対する理解を深める必要があるため、事務局から説明をお願いしたい。

〈事務局〉 【 資料3に沿って説明 】

〈前田副会長〉 事務局の説明に対して、ご意見や質問等があればお願いします。

〈伊藤委員〉 協議会の事前説明の際には、大宮中では小中一貫は検討しないと聞いていた。川戸地区でのモデル実施を先行して行うため、大宮では当面検討する必要はないと聞いたが、どうなっているのか。今回は小学校だけの統合だと説明があったが。

〈事務局〉 現在は、千葉市ではテストケースとしてモデル校を指定して、実践に取り組んでいる。今年度は川戸中と幸町第二中で実施している。まずは、小学校の統合をきちんと決めていただき、どちらの小学校が残ることになった場合でも、将来的には、中学校を交えて施設一体型の小中一貫教育校化を目指す提案をさせていただきます。

〈伊藤委員〉 なぜ突然に小中一貫教育校化の議論が出てきたのが疑問である。大宮地区よりも子どもの

数が少ない、更科地区の方が適していると思う。

- 〈事務局〉 確かに、大宮中学校の統合は地理的に難しいことは、これまで説明してきた。したがって大宮中の他の中学校との統合は当面考えていない。小中一貫教育校化について、今日きちんと提案させていただき、中学校の将来を考えて、これから議論をお願いしたい。
- 〈伊藤委員〉 資料3のメリット・デメリットの部分について、小規模校において、挑戦しあう活動が少なくなる傾向があるとはいえないのではないかと。大人数でないといけないものでもなく、極論1対1でも競争は発生するといえる。
- 〈事務局〉 人数が多いほど、競い合う対象範囲が大きくなり、挑戦に結びつきやすいと考えている。競争し合う相手のレベルが同程度である方が競争が生まれやすく、集団規模が大きいほど同じ程度のレベルの相手が生まれやすいためである。
- 〈伊藤委員〉 レベルの差があっても、挑戦するという姿勢があつて当然だと思う。
- 〈事務局〉 「傾向がある」としてお示ししているのは、統合校を対象にしたアンケート調査結果から読み取れたことによるものである。もちろん一人で目標を設定して競い合うことは可能ではある。
- 〈前田副会長〉 資料の詳細な文言の問題はあるが、全体的な考え方としてはどうか。小学校の統合を前提として、議論を進める方向で良いか。
- 〈伊藤委員〉 統合しないという方向も協議内容に入れてほしいと、地元説明会でもお願いされている。統合しないという案も前提として持っておきたい。
- 〈前田副会長〉 最終的には統合しないという結論となることもあるだろうが、この協議会では学校適正配置は必要として議論を進めるということでしょうか。
- 〈廣瀬会長〉 議論の前提として、統合することによるメリットについて、実際に子どもたちにどのような効果を及ぼすか、各委員は理解できただろうか。例えば、競い合う場が生まれると実績として学力は上がっているのか。
- 〈宮崎委員〉 現在の更科地区において子どもたちが困っていることは具体的に何か。こういう風に良くなったといった、これまでの統合事例に即したデータを議論の参考としてデータで示してほしい。
- 〈事務局〉 教育委員会では、統合しない方がよかったという児童生徒の声が出ていないか、統合後3か年に渡って、教職員へのアンケートやインタビュー等の実施により統合の様子を見ている。今のところ、統合をきっかけに不登校が出たということは確認されていない。アンケートの回答のなかには、「友達と口喧嘩が多くなった」という声が寄せられることがある。これは、児童生徒同士で自分の意見を言いやすい環境ができたことの表れであると捉えられる。学力についても、具体的な学校名を出すことはできないが、千葉大学との共同研究の成果として、一般的な統合による学力向上の可能性が示されている。
- 〈松坂委員〉 学校適正配置の考え方について、個人的には理解はできるので、推進していくべきだと思う。経済的な側面等、様々な見方があると思うが、方針として統合を進めるということは良いことと思う。統合によらないとする場合は、協議会の議論が進まない。同じメンバーでずっと過ごすより、人間関係の問題など、クラス替えできる環境が良い。メリット・デメリットについては、資料の記載の通りなのだろう。ある程度の学校規模を確保する必要があるだろう。また大宮中学校も将来的に単学級になるとの見通しであれば、これも何か方策を講じないと、更科地区の中学校がなくなってしまうか心配である。
- 〈前田副会長〉 統合への不安は様々あり、質問は多々あろう。統合を前提に議論を進めて良いか。反対はないか。

- 〈伊藤委員〉 千城小を議論の枠組みに組み入れないのはどうか。千城小での統合議論見送りを認めて、大宮地区で認めないのはなぜか。
- 〈事務局〉 教育委員会では、大宮台小や千城小を含め、全校6学級以下で全校120人未満の小中学校を訪問し、学校適正配置に関するヒアリングを実施している。そのなかで、教育委員会が学校適正配置を進めるよう指導しているわけではない。大宮地区においては、大宮小はしばらくは120人の規模を維持する見通しだが、大宮台小の保護者から、来年度複式学級が発生する見通しに対して、早急に対応が図られるよう要請されている。千城小では、大宮地区の様子を見据えて検討をしたいとの声があったためである。
- 〈廣瀬会長〉 統合校の設置位置をどうするかはともかく、統合自体に反対する事情はどういったものか。
- 〈伊藤委員〉 学校適正配置が必要という声は理解できるが、千城小が取り残されている。今後の学校適正配置について、千城小や多部田の地区など、地域全体の状況を見越して議論するのはどうか。
- 〈鹿児島委員〉 教育委員会の考え方を支持するスタンスである。大宮台小でも、更科まで広げて考えた事もあった。小中で9年間同じ地区で子どもたちに過ごしてほしいという思いから、少しでも早く小中一貫教育校化を望む声があった。地区として、可能であれば是非小中一貫教育校化を考えていきたい。
- 〈前田副会長〉 大宮台小の切実な思いも寄せられた。小学校の統合を前提とした議論を進めていきたいが、良いか。異議のない方は、挙手をお願いします。
- 【 半数を超える挙手 】

#### **議題④ 大宮地区学校適正配置（案）の基本方針について**

- 〈前田副会長〉 まずは事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 【 資料4・5に沿って説明 】
- 〈加藤委員〉 中学校も同時に工事を行うのか。大宮小または大宮台小に中学校が入るイメージになるのか。大宮小か大宮台小の位置に中学校も入るようなイメージか。
- 〈事務局〉 施設一体型小中一貫教育校化を目指して、黒板の高さ等、将来中学校が入ることを想定して簡単な工事を行うことをイメージしている。
- 〈宮崎委員〉 市全体の方針として、市内の全学校で小中一貫教育校化を推進していくイメージなのか。私立学校で中高一貫ほど小中一貫教育校化が進まないのは、難しい課題があるからではないのか。なぜ、大宮地区を先行実施していくのか。もっと条件の良い学校があると思う。
- 〈事務局〉 担当である教育指導課では、小中一貫教育推進委員会を組織し、この5～6年で検討を進めている。3地区でのモデル校を研究している。まずは更科小中学校である。行事の連携等を実施した。次に川戸小中学校である。小中学校が隣接していることから、特定の教科に絞って一貫教育を行った。3つ目は、幸町第三小・第二中学校である。すべての教科において、小中一貫教育を実施した。研究成果発表では、非常に大きな成果を上げていると伺っており、今回提案している次第である。幸町地区での効果検証では、研究授業実施前では小中一貫教育に関して教職員の肯定的な意見が当初17%だったのに対し、研究授業実施後は、小中一貫教育をやった方が良いという意見が9割近くに達している。小学校の授業に中学生や中学校教員が入ることで、小学校の授業が活発化している。今回提案するのは、これまでの統合事例と異なり、統合してもクラス替えができない学年が発生することが予想されている。小中一貫教育校化を目指した魅力ある学校づくりを行うことが、地域の活性化にもつながると考えている。

- 〈伊藤委員〉 今回の議論は中学校を含めないものと聞いていた。まずは小学校の統合と伺っていたので、突然の提案のように思われて、困惑している。まずは小学校の統合が決まった上で、中学校のことにについて考えるのが順序ではないか。
- 〈事務局〉 小学校の統合のみ行って、中学校は残すという結論も当然あり得る。ただし、小学校校舎の校舎改築を行う場合、一度国の補助金を活用して校舎の工事を行ってしまうと、しばらくは次の工事ができなくなる可能性があり、中学校のことも予め考慮するのであれば、先行してスペースを確保しておくことが重要ではないかと考え、今回の資料にお示ししている。始めから中学校が入ることを前提とせず、まずは小学校の統合だけを想定するということもあるだろうし、協議会の議論の結果によるものになる。
- 〈前田副会長〉 施設だけ先行して作って、中学校が結果入らないということはあり得るのだろうか。
- 〈事務局〉 工事といっても、黒板の位置調整を行うといったもの等であり、特別な工事ではない。真砂地区では、中学校校舎に小学校が入った事例もある。
- 〈伊藤委員〉 小学校のみ先に工事を行って、後に中学校に移転するような工事を行う手法もあるだろう。
- 〈鹿児島委員〉 協議会の議論の結果として、中学校も今回一緒に進める、逆に中学校は残すという判断はもちろんあり得るのだろう。ただ、中学校だけ取り残されることになるのが心配である。小学校の保護者からは、児童はこれから中学校に進学していくことから、小中一貫教育校化も先に進めてほしい声があり、協議会の場でも提起してほしいと言われて来ている。もし、協議会の場で決定できる事項ならば、中学校も交えて議論を進めていきたい。いずれにせよ考えられる問題でもあるので、まずは第一歩を踏み出していきたい。
- 〈本澤委員〉 保護者に話を聞いたところ、なぜ中学校も一緒に議論しないのかという声があった。一部には少人数が良いとする意見もあったが、いずれは同じ中学校に通うのだから、一緒に議論しても良いという意見を聞いているので、将来的にはこの方向に議論が向かうのではないかと。
- 〈伊藤委員〉 中学校では、小中一貫教育校化の話は出ていない。いきなり協議会の場で進めて良いかどうか心配である。大宮小も恐らく同じではないか。大宮台小は切羽詰まった状況のなかで、将来的なことも見据えていきたいという声が出てきているのはわかる。
- 〈鹿児島委員〉 大宮台小と大宮小、どちらの場所で統合するにせよ、今回適正配置に取り組まないと、またおいて行かれてしまうという気持ちがある。子どもたちのために、前に進んでいきたい。保護者同士で話題になったこととして、千城台地区では何故南中の隣に位置する南小が残らなかったのだろうかということがあった。校舎の築年数の事情ということの話のようであるが、大宮地区の統合小学校の設置場所がいずれになるにせよ、中学校も一緒に考えたいという話が出ていた。
- 〈松坂委員〉 11月の地元説明会の資料のなかで、A・B・Cの適正配置の3パターンのうち、Cパターンの中に小中一貫教育校化のシミュレーションがあった。小学校は大宮、中学校は大宮中と別の場所に通学するのだろうか、通学バスがないと、ローズタウンの児童が大宮小に自力で通うのは難しいと思われるので、白井小や都小に行ってしまうのではないかと心配する声もあった。小中一貫教育校化についても何故併せて検討しないのかという声を聴いて、地元説明会の資料を活用したことがあった。小学校の適正配置のみを考えるよりも、中学校も含めて議論した方が良いと思う。議論が突然出てきたという心配は分かるが、将来を見据えて議論を進めたほうが良いと思う。
- 〈事務局〉 議論の進め方の手順として、まず地元代表協議会の場で小中一貫教育校化を見据えた適正配置の基本方針の議論を受けて、中学校保護者会への説明に入りたいと考えていた。中学

校の校長・教頭には事前にお話させていただいたが、順序が逆のようにお感じになられたとすれば申し訳ない。これまでの地区では学校の地域での配置バランスを重視したところもあったが、9年間の学びの連続性や教育環境の整備を考えると、お示した案が適切ではないかと考えている。中学校の保護者への説明は、この協議会の結果を以て、行っていきたい。

〈伊藤委員〉 地元説明会の場では、小学校統合について協議していくと説明を受けていることについてはどうか。

〈事務局〉 手順として、まずは小学校の統合校の設置位置を決定して、地元代表協議会の場で小中一貫教育校化を検討し議論を重ねる必要があり、説明会の時点ではまずどちらの小学校にするのかというところまでであったように思う。

〈伊藤委員〉 説明会に参加した地域の方々は、まさか中学校までという思いを持っている方もいると思う。もう一度地元に対して説明を行っていただく必要があるのではないか。

〈鹿倉委員〉 小中併せた検討ができればという声もちらほら聴かれるが、大宮小では寧ろどちらの学校が残るのかという声が多いように思う。長年地域に住んできた方の思いもあるだろう。小中一貫教育校化に対しては、考えられないところもあるかもしれない。

〈鹿児島委員〉 協議会も正式に発足し、議論がスタートしていく中で、協議会の状況を所属している団体に説明しなければならない。場合によっては教育委員会の協力が必要となることもあるだろう。会長のご挨拶にもあったとおり、地域のことだけを考えるのではなく、子どもたちのために学校を残す判断をしなければならないことは、地域でも話をしてもらっていく必要があるだろう。

〈前田副会長〉 中学校を含めて議論を進めていくこととして良いか。その場で挙手をお願いする。  
【 半数を超える挙手 】

#### **議題⑤ 大宮地区学校適正配置（案）について**

〈前田副会長〉 小中一貫教育校化を見据えた場合の想定となると思うが、まずは事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 【 資料6に沿って説明 】

〈前田副会長〉 案に示されたスケジュール感や教室の配置はともかく、この場で統合小学校の設置位置を決めるのは難しいだろう。持ち帰って検討いただき、次回での議題にもなるかと思うが、この段階でご意見等はあるか。

〈伊藤委員〉 小中一貫教育校化を含めて議論を進めていくことが議決されたところかと思うが、対象校の保護者への説明報告はPTAでできるが、地域団体への説明はどうするのか。地域の方々の思いを大事にしながら適正配置を進めると聞いていたが、スケジュールが先行して出てきている気がして不安である。本来は地域等の意見が出されて初めてスケジュール案が出るべきではないのか。

〈事務局〉 地元説明会の中で全てを決定することはできない。説明会では学校適正配置の必要性を説明し、詳細な検討は地元代表協議会で決定することを確認し進めている。地元代表協議会の決定については、これまでの地区では、地元代表協議会の開催結果を公表したり、要請に応じて再度地元説明会を実施したりしてきた。

〈前田副会長〉 今回はあくまで提案という位置づけであり、学校は学校、地域は地域で検討状況を集約していただきたい。統合する場合の案は2つということなのであろう。

〈鹿倉委員〉 大宮小の施設開放委員会では、どちらかに統合することになった場合に、残った跡施設と

なる体育館やグラウンドがどうなるのかという話題が出ることもある。あくまで、現段階ではどのように想定されているか。

〈事務局〉 他の地区では、跡施設の協議の中で、統合校同士で合同開放委員会が組織されて、利用方針を調整するなどした事例もある。またある地域では、跡施設の協議会等の中で都市計画決定上建築の法令上の制限があり、他の施設の建築ができない規制があったため、体育館やグラウンドが残ることもあった。

〈伊藤委員〉 体育館が一つになる場合、バスケットボールでは、小中でゴールの高さが変わってくるが、体育館が共用となった場合はどのように対応されてきたのか。

〈事務局〉 大宮小が統合校の位置となった場合は、小学校の体育館を共用することになる。中学校の部活に使用できないことから、中学校の体育館を残してもらおうということを検討することも考えられる。

〈前田副会長〉 統合校の設置位置検討にあたっては、設備というよりも通学環境がポイントになることが多いと思う。次回以降、各委員の意見を伺いながら協議していきたい。

#### (4) 連絡

- ・協議会での承諾に基づき、委員名簿及び今回の議事要旨を公開させていただく。各委員の修正確認を踏まえて、教育委員会企画課ホームページ上で公開する。
- ・これからは月1回程度の開催を目指し、次回協議会は平成31年2月16日(土)午後1時15分から3時30分で開催する。会場は本日と同じ大宮台自治会館とする。各委員へは事前に開催通知を事務局より送付する。
- ・所属する団体への第2回の日程案内をお願いしたい。傍聴も可能である。
- ・第3回協議会は、平成31年3月16日の午後を目標として開催したい。
- ・協議会を欠席する場合は、事務局に連絡していただき、その場合はできるだけ代理出席者を出していただきたい。

〈鹿児島委員〉 今後は4月以降に年度が変われば、委員の改選がありそうだ。

〈前田副会長〉 改選がある場合は、後任の方に申し送りをしておいていただく負担が発生することもあり、可能であれば同じ委員構成である第3回くらいには方向性を出していくのが理想である。

〈事務局〉 あくまで委員は各団体の代表としての位置付けであるため、役職にこだわる必要はないものと考えている。

〈伊藤委員〉 統合小学校の設置位置に関わらず、小中一貫教育校化を目指すこととなった場合は、中学校の建て替えは行うのか。

〈事務局〉 資料の案にあるとおり、大宮小になった場合は、大宮小に入るまで時間があることから、中学校校舎は使用しないか検討することになるのではないかと。大宮台小になった場合は、中学校で一部の棟を使うことが考えられる。

〈伊藤委員〉 学校評議員会でも中学校の校舎の構造が話題になることがある。現状、特別支援学級が設置されている校舎のあたりは、日当たりが悪く寒い。

〈事務局〉 建替え、新築は学校施設課が担当しているが、長期的な計画を立てて順次対応している。統合を機会として中学校校舎を新築するということは現状考えていない。

〈伊藤委員〉 大宮中はあと3年程で50周年を迎える。統合校開校後10年位で60年を迎えることになる。小中一貫まで見据えるのであれば、建て替えも検討すべきではないか。

〈廣瀬会長〉 この協議会の場では、校舎の老朽化対策を検討の視点とするのではない。システムとして



の学校教育を考える場としていきたい。